

全校集会で話したこと 「友だちを大切にしよう」



5月と6月の全校集会では続けて、「友だちを大切にしよう～自分がされていやなことは、人にしてはいけません！」というテーマで話をしました。

最近、子どもたちに大流行のサッカーの様子を見ていると、乱暴なことばやラフプレーが見

られます。学級でも人間関係のトラブルが出てきたことなどを受け、一度じっくり考えさせたいと思ったからです。1回目は、日本の人口が減っていること、全人口に占める子どもの割合も減っていること、平山小学校の児童も年々減っていることなどを資料をスクリーンに投影しながら説明し、国にとっても平山の地域にとっても「子どもがすごく大切であること。」を確認しまし

た。そして、数の問題だけではなく、「一人一人が大切な存在であること。人のいやがることを言ったりやったりしてはいけないこと。」を話しました。2回目は、「わたしのいもうと」（松谷みよ子、偕成社）という絵本の読み聞かせをしました。要約すると、小学校4年生の時に転校した学校で「妹」がいじめにあい、心を病んで心を閉ざしてしまい、いじめた人たちはいじめたことも忘れ、中学生や高校生に成長し楽しく登校しているのに、「妹」は回復することなく死んでしまう、という内容です。子どもたちはみんな神妙な顔つきで聴いていました。絵本を読んだ後に、いじめは犯罪である（なりうる）ことや、どんなことがいじめになるのかも具体的に話し、先生たちはいじめを絶対にゆるさないことを伝えました。

ところで、典型的ないじめ行為である「仲間はずれ・無視・陰口」は、「小4から小6までの3年間で8割の児童が被害にあっている。また、加害に及ぶ児童も8割である」という調査結果（国立教育政策研究所『いじめ追跡調査』）があります。このことは、いじめは児童にとって他人事ではなく、だれでも経験し、だれでも加害者、被害者になりうることを示しています。集団で共同生活を送っているのですからいじめのきっかけはどこにもあります。また、些細なトラブルが悪意を持ったいじめに発展することもあります。日常に起こるトラブルをできるだけ減らすこと、トラブルをうまく解決することがいじめ未然防止につながるという考えに立って、最後に、「友だちとうまくいかないときに、考えなければならないことは『人と人との関係は、「カガミの中の自分に見せる表情」に似ている。相手に優しくすれば、自分に優しさが戻ってくる。乱暴なことばやいやなことをすれば嫌われる。だから、うまくいかない理由を相手のせいにする前に、①自分にも悪いところがないか反省する。②悪かったところをあやまったりなおしたりすることが大切です。』」と話しました。

いじめ対策の最善策は、「未然防止」と考えます。学校や学級がいつでも居心地のよい場所、互いのよさを認め合う場所、人間関係を学びながら成長する場所になるよう努めてまいります。

